

授業概要

21 世紀の今日、国際交流が益々頻繁になるにつれ、学生のみなさんは街角やバイト先などで中国語を耳にする機会が多くなっただろう。いざというときに、簡単な中国語で話せたらいいと思われる人に本授業の履修をおすすめする。この授業では、中国語の発音、基本単語、基礎文法を習得し、教員やクラスメートとの会話練習を通して、日常生活で最もよく使われる実用的な中国語の基本表現を身につける。また、中国文化を紹介する視聴覚資料を通して中国現代社会、中国文化などに対する関心の喚起を図り、理解力を高めていく。

授業計画

第 1 回	はじめての中国語、中国語の発音基礎 1 (声調、あいさつ言葉)
第 2 回	中国語の発音基礎 2 (単母音、子音)
第 3 回	中国語の発音基礎 3 (複合母音、鼻音母音、数字の言い方)
第 4 回	第 1 課 初対面のあいさつなど、要点
第 5 回	第 1 課 会話文、練習問題
第 6 回	第 2 課 いろいろな場所の言い方など、要点
第 7 回	第 2 課 会話文、練習問題
第 8 回	第 3 課 いろいろな身の回り品の言い方など、要点
第 9 回	第 3 課 会話文、練習問題
第 10 回	第 4 課 いろいろな中華料理の言い方など、要点
第 11 回	第 4 課 会話文、練習問題
第 12 回	第 5 課 1 日のルーティン、時刻の言い方など、要点
第 13 回	第 5 課 会話文、練習問題
第 14 回	第 6 課 いろいろな特長の言い方など、要点
第 15 回	第 6 課 会話文、練習問題
第 16 回	筆記試験

到達目標

この授業を通して次の目的の達成が期待される。

- ①中国語の発音、基本単語、基礎文法を習得できる。
- ②中国の社会、文化などに対する理解力を高めることができる。

履修上の注意

中国語は「発音良ければ半ばよし」という言葉があるように、授業以外の時間を利用して教材の発音を聴きながらたくさんの発音練習を行う努力が必要である。

予習・復習

外国語は決して一朝一夕で習得できるものではない。また、授業の時間だけでは不十分である。授業以外の時間を利用して復習と予習を確実に行ってから、授業に参加すること。

評価方法

授業態度 (20%)、宿題 (50%)、期末試験 (30%)

テキスト

オリジナル教材を使用します。詳細について初回の授業で説明します。初回の授業はプリントを配布します。

授業概要

初めて中国語を学ぶ人のための授業である。日本の高校を卒業した人は平均 3,000 字を読めると言われているが、その漢字のほとんどが中国の漢字と重なっていることを考えれば、中国語を学ぶ際の大きな財産となろう。しかし、漢字が同じでも発音や文法が異なるので、常に高い学習意欲をもって勉強することが求められる。積極的に発音練習を行い、分からないことをどんどん質問するのが上達の近道である。本授業は中国語の発音・文法の基本を学びながら、中国人の表現方法や文化の多様性に触れて、視野を広げてもらうことを目指している。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：中国語はどんな言葉？（発音、簡体字、ピンイン、基本文型と語順） この授業について（授業内容、授業方法、評価方法、テキストなど）
第 2 回	声調、単母音、複母音
第 3 回	子音、鼻母音、r 化音
第 4 回	人称代名詞
第 5 回	動詞「是」と助詞「的」
第 6 回	動詞述語文（SVO）
第 7 回	選択疑問文と疑問詞疑問文
第 8 回	動詞「喜歡」と助動詞「想」
第 9 回	所在を表す「在」
第 10 回	存在を表す「有」
第 11 回	数詞と量詞
第 12 回	年月日、曜日、年齢、時刻の言い方・使い方
第 13 回	二重目的語
第 14 回	形容詞述語文
第 15 回	総復習
第 16 回	期末テスト（筆記試験または口述試験）

到達目標

- 1、中国語はどんな言語か理解できる。
- 2、中国語の発音と文法の基本をマスターできる。
- 3、中国語であいさつや簡単な会話ができる。
- 4、中国文化について初歩的な知識を身につけることができる。

履修上の注意

遅刻・早退、授業中の私語・スマホ操作は厳禁する。
6 回以上無断欠席した場合、期末試験は受けられない。

予習・復習

事後学習としてテキスト、ノートをしっかりと読み返し、また音声再生アプリ「リスニング・トレーナー」や CD を利用して発音練習を行ってください。

評価方法

期末試験（50%）、授業態度（50%）で評価する。

テキスト

- ・教科書名：かんたん楽ショウ！初級中国語・入門編
- ・著者名：陳 淑梅
- ・出版社名：朝日出版社
- ・出版年（ISBN）：2023 年 1 月（978-4-255-45372-9）